



令和7年4月現在、大きな影響もなく60%前後に加え肝機能や脂肪肝の
 口3939人、世帯数1で推移しています。特定 有所見者が目立つ状況で
 591世帯、高齢化率は 保健指導を含む保健指導 す。また村内小中学校で

山村です。村の中央には 867 人、加入率 22・0 保健指導実施率は高い状況では保健指導や医療受診清流「川辺川」が北から %と年々減少傾向にあり況であるにも関わらず、勧奨が難しく、十分な対

国・熊本県と比較しても特に親世代を含む40～50食や運動などのあらゆる大差はありませんが、平成代では、HbA1cやLDLの保健指導判定値で選択できる年齢である均自立期間は国・県より

熊本市相良村役場保健福祉課参事 池田 文美

1%と予想より高く、子どもで実施し、集団では熊本大学病院や村内の医師にた子どもたちが思春期健康者の関心度の高さをを知るよる健康講話と併せて結診から若年層健診、特定

ことができました。受診 果データの見方を保健師 健診、後期高齢者健診と率以上に驚いたのは有所 や管理栄養士から説明。生涯を通じて健診を受け

見者状況です。尿蛋白土 個別では、親子の参加を
 以上は約7割、HbA1 促すため平日の夕方や休 られる環境が整えられた
 のは確かです。「思春期

5・6以上は約4割の 日も対応できるよう工夫 健診」は村の健康づくり生徒が該当し、国保医療 しています。説明内容との種まきと考えていま

費や介護給付費、特定健診では、①検査結果にはす。子どもの健診受診を診で村の課題となってい基準値があること、②健きっかけに、子ども自身

る疾患が子どもたちの健診結果は生活習慣からス
が健康について学び、そ
診においても例外ではな
タートし血管変化、健康
の学びが家庭や地域、村

いことが明らかとなり危 障害、社会保障へとつな 全体の健康づくりへと広
機感を覚えました。その がっていること、③自分 がっていくような保健事

ため、相良村の子どもたちの生活とあわせて経年的にみていくことの大切さを感じています。